

日本語教員養成課程における 海外教育実習の評価と課題

金秀皓*
shkim@syu.ac.kr

山下大輔**
syujpn@yahoo.co.jp

<目次>

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 研究の背景 | 5. 結果 |
| 2. 海外教育実習の法的解釈 | 5.1 マレーシア人生徒のアンケート |
| 3. 先行研究 | 5.2 韓国人実習生へのアンケート |
| 4. 研究方法 | 6 結論 |

主題語: 海外教育実習評価(an evaluation on practicum in overseas)、教育実習生(pre-teachers)
英語による教育実習(practicum in English)、サービス・ラーニング(service-learning)
異文化理解(understanding different cultures)

1. 研究の背景

筆者が勤務先では、2009年度より、それまで学部学科別に行われていた長期休暇中の海外ボランティア活動を、教養科目「Sahmyook Global Service 400」に統合し、年間400名の学生に補助金を出すことで、積極的に学生の海外ボランティアを奨励している。筆者が所属する日本語科では、この科目を利用し、これまでに2009年度より4回、マレーシアの私立小・中・高校で日本語と韓国語のクラス担当するボランティア活動を実施した(山下 2010)。

そこからのスピノフのプログラムとして、本校の卒業生をその学校に日本語、韓国語および音楽の教員として派遣し、一年半の教育インターンのプログラムを実施した(山下 2011)。そして、さらに、スピノフ・プログラムの第二弾として実施されたのが、本稿の研究対象となる、マレーシアにおける日本語教員養成課程の教育実習の実施である。

* 三育大学校日本語科助教授

** 三育大学校日本語科専任講師

2. 海外教育実習の法的解釈

本学日本語科では、韓国の教育科学部(日本の文部科学省に相当)が発行する、「教員資格証(中等学校正教師 2 級日本語)」の取得が可能となっている。そしてその教員養成課程では、計 4 週間の「教生実習(日本の教育実習に相当)」が義務付けられている。

日本の文部科学省は日本国外での実習は教員免許取得要件を満たさない立場であるが、韓国ではどのような解釈から、韓国国外における教育実習が可能であることを説明する。法的根拠を与えているのは、2011 年教育科学部発行の『2011 年度教員資格検定実務便覧』である。その第 3 章(教員資格無試験検定)の 4. (教職科目履修)の 4)(学校現場実習協力学校選定)に、「学校現場実習実施可能学校」が規定されており、その中に以下の文言がある。

외국의 정규 유치원 및 초·중등학교: 대학이 학점교류 협정을 체결한 외국대학이 지정한 학교 또는 해당 국가대사관에서 정규학교임을 공증 받을 수 있는 학교

外国の正規幼稚園及び小・中等学校: 大学が単位交流協定を結んだ外国大学が指定した学校または該当国家大使館から正規学校である公証を受けられる学校(筆者訳)

本稿が検証を行う海外教育実習は、後者のケース、「該当国家大使館から正規学校である公証を受けられる学校」が適応される。マレーシアは韓国内に大使館を設置し、そこで実習先が正規学校である公証を受けられることが分かったことで、この海外教育実習が実現した。

3. 先行研究

前述したように、日本における海外での実習は認められていないため、日本における海外教育実習の先行研究は存在しえない。しかし、一般的な教員免許状とは別枠で扱われている日本語教員養成に関しては、それぞれの教育機関で、日本国外での教育実習があるようである(真嶋 2000)。しかし韓国内では認められている韓国国外における教育実習であるが、それに関する専攻研究も発見できなかった。研究どころか、事例すら発見できないので、本稿の実践が、極めて珍しいケースであると言える。

本稿のきっかけとなったのは、Sallee&Harris(2007)の研究である。次のセクションで詳述するが特に本稿の後半部分は、この研究がベースになっている。彼女らは、韓国と台湾から米国への留学生を、米国の学校で教育実習させ、東洋の視点から西洋の教育を眺めた経験を報告している。そこで用いられた理論は、Hofstede(1986)の文化理論であり、それは筆者が前述した教育インターンを分析した研究で用いたものと同じである。

4. 研究方法

本学でも初めてのマレーシアでの教育実習の分析と評価には、二つ方向から収集したデータを用いた。一つは、実際に実習生の授業を受けたマレーシアの生徒へのアンケート調査である。調査票(付録1)は福本・伊藤(1998)の開発したものに、文化的な要素を加えて再構成した。集計されたデータは、それぞれ異なる大学生が実習を担当したクラスと、その生徒が示したアンケート結果の比較を行った。

二つ目は、マレーシアで実習を行った4人の韓国の大学生へのアンケートである。前述のSallee&Harrisの研究で、韓国と台湾の学生が教育実習をした後に行ったアンケートで用いた設問の、「米国」の部分「マレーシア」に入れ替えて質問を行った(付録2)。

最後に、最初に行ったマレーシア人生徒へのアンケート結果と、韓国人実習生のデータを突き合わせ、連関を検証した。

5. 結果

5.1 マレーシア人生徒のアンケート

まず、サンプルの一つであるマレーシアの生徒について説明する。実習生のクラスを受けたマレーシアの生徒数は合計で222名である。そして偶然にも、それぞれのクラス内では差があるが、合計では男女ともに108名ずつとなった。自分の性別を記入しなかった生徒が6名いる。T5のクラスに集中しているところを見ると、アンケートを委託された担任のマレーシア人教員が、この部分を強調しなかったものと思われる。

<表1：韓国人大学生の実習を経験したマレーシアの中高校生数>

		Sex			Total
		Female	Male	Not Indicated	
Class	T1	10	22	0	32
	T2	15	23	0	38
	T4	11	6	0	17
	T5	12	15	5	32
	G2	23	11	0	34
	G3	12	2	0	14
	G4	15	13	0	28
	G5	6	9	1	16
	G6	4	7	0	11
	Total	108	108	6	222

実習を行った学校は二つ。Sabah Adventist AcademyとGoshen Adventist Academyである。どちらもマレーシアのサバ州に所在するキリスト教系私立学校である。Sabah Adventist Academyは、Tamparuliという町にあるため、クラスの記号はTとした。Goshen Adventist Academyの方は、そのまま頭文字を取ってGである。その後の数字は学年である。1が韓国や日本の中学校1年生に相当する。そして一番上が6、つまり高校3年生である。数字が抜けているクラスは、韓国の大学生が実習をしなかったクラスである。Tamparuliでは4クラスが、Goshenでは5クラスが、韓国人大学生の教育実習を経験した。全体的にTamparuliよりもGoshenの方が少人数クラスであることが分かる。

次に設問である。オリジナルは英語であるが、その日本語訳は以下ようになる。橋本・伊藤(1998)が開発した教育実習生の授業評価に用いるアンケートを、文化的に質的な回答になるように手を加え、さらにYes/Noで答えない内容にしたところがポイントである。

1. 韓国人教員がどのように黒板を使ったか説明してください。それはマレーシア人教員と比べて、どのように違いましたか。
2. 韓国人教員がクラスでどのように話しましたか説明してください。それはマレーシア人教員とくらべて、どのように違いましたか。
3. 韓国人教員はクラスでどのように生徒を指名しましたか。それはマレーシア人教員とくらべて、どのように違いましたか。
4. あなたは韓国人教員のクラスにどれぐらい集中して取り組みましたか。
5. 韓国人教員が一番うまく教えたと思う授業はいつでしたか。
6. 韓国人教員が一番下手に教えたと思う授業はいつでしたか。

それではこれから、それぞれの質問に対して、マレーシア人の生徒がどのように答えたか見て行きたい。

その前に、紙幅の都合上、全ての設問に対し、全てのサンプルを取ったクラスの分析を行うことは大変難しい。そこで、分析をより効率的に行うために、次のセクションで扱う実習を行った韓国の大学生が担当した時間が長いクラスを中心に取り上げた。男1名、女3名の合計4名の大学生が教育実習を行ったが、その内の3名(男1名、女2名)から、アンケートの回答が寄せられた。そこで、この3名が最も長い時間実習を行った三つのクラスと、それ以外という区分けで、比較分析を加えたいと思う。便宜上、男子学生を学生M、女子学生をF1、F2とする。Tamparuliで実習を行った学生MとF1が担当した時間が最も長かったのは、それぞれT1とT2クラスであった。Goshen行ったF2が担当した時間が最も長かったのはF2クラスであった。他のクラスからもアンケートの回答が寄せられたが、韓国人実習生との接した時間が相対的にここに挙げた三つのクラスに比べて短いことから、次のセクションで論じる実習生からのデータと突き合わせて比較するにあたり、影響の大きいグループと、小さいグループに分けることで効率化を図った。

質問1

まず、最初に寄せられた回答をグループ化し(コーディング)、集計をした。質問1の回答は、以下の5つであった。

1 Yes (はい)、2 No (いいえ)、3 They write bigger (大きく書く)、4 Don't know (分からない)、5 Can't understand their English(英語が分からない)

そして、その割合が、クラス(グループ)間でどのようになっているのかを示したのが以下の表2である。

前述したように、全ての設問はYes/Noで答える形式にあえてしていない。にもかかわらず、多くのマレーシアの生徒がYes/Noで答えている点である。これはどのように解釈すればいいのであろうか。筆者が最も有効だと考えているのは、回答への無関心である。次に考えられるのは、マレーシア人教員との違いについて質問の最後で問うているため、差異があると思えばYes、ないと思えばNoと答えた可能性である。本稿では前者を採用し、分析においてはYes/Noの回答は無効として扱う。

<表 2 : クラス別質問 1 の答え>

	Class									Total
	T1	T2	T4	T5	G2	G3	G4	G5	G6	
Blackboard Yes	7	7	7	7	20	2	14	3	5	72
No	16	25	9	16	11	12	14	13	5	121
They write bigger than our teachers.	6	4	0	3	2	0	0	0	1	16
Don't know.	0	0	0	6	1	0	0	0	0	7
Can't understand their English.	3	2	1	0	0	0	0	0	0	6
Total	32	38	17	32	34	14	14	16	16	222

設問に対してYesとのみ答えた学生は、学生F2が担当したG2のクラスに圧倒的に多い。その他のクラスは、押し並べて平均的な値を示している。逆にNoと答えた学生は、T2に圧倒的に多く、全38名中、実に25人がただNoと答えた。無関心な生徒がYes/Noで答えたとすると、韓国人学生が最も長く接したマレーシア人生徒が真摯にアンケートに答えなかったことになり、実習のネガティブな面を疑わなければならない。これに関しては、研究方法の改良と追加研究を要する。

マレーシア人教員との比較において板書の字の大きさについて言及している生徒も、韓国人実習生との接点が多かった生徒に多く見られる傾向である。不慣れな言語を書く場合、慣れた言語で書くよりも字が大きくなったのではないか。特に最も回答の多かったT1の学生Mは、事前に英語の能力について不安を訴えていた。それが、そのまま板書の字になってあらわれたと判断できる。そして、それを裏付けるように、英語が分からないという答えも、学生Mのクラスに最も多い。

質問2

回答をグループ化して集計すると以下のようになる。

1 Yes(はい)、2 No(いいえ)、3 Don't know(分からない)、4 Hard to understand(理解が難しい)、5 Very good(とても良い)、6 Accents(アクセント)、7 They use actions(アクションを使う)

<表3：クラス別質問2の答え>

	Class									Total
	T1	T2	T4	T5	G2	G3	G4	G5	G6	
Way of Yes	7	17	6	13	19	2	21	13	9	107
Talking No	10	1	3	5	3	0	6	3	1	32
Don't know	1	0	0	4	0	0	0	0	0	5
Hard to understand	9	12	5	10	12	12	1	0	1	62
Very good	3	3	0	0	0	0	0	0	0	6
Accents	2	4	3	0	0	0	0	0	0	9
They use actions.	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
Total	32	38	17	32	34	14	28	16	16	222

ここでもYes/Noで答えた割合が、三つのクラスに多い傾向が見られる。特に英語が苦手な学生Mが担当したT1にNoの回答が最も多いところを見ると、話し方の否定的な意味で回答している可能性が高い。理解が難しいと答えた生徒が多いのも、やはり実習生との接点が多かったクラスの生徒である。

とても良いと答えた生徒が、T1とT2にわずか3名ずつばかりいることはどのように理解すればいいのであろうか。これは英語力の指標というより、人間関係の指標と考える分析も成り立つ。

アクセント、つまり英語の発音について指摘した生徒がいたのもやはりT1とT2のクラスであった。そしてT2の生徒の一人は、先生のアクション、つまり身振り手振りについて言及している。やはりここでも韓国人実習生の英語力について、アンケート結果が間接的に評価を下している。

ちなみに、G2を担当した学生F2は、日本語には自信がないのだが、英語には比較的自信を持っていた。それが、生徒へのアンケート結果でも明らかになった。

質問3

質問3では、答えを集計したところ、大きく分けて12種類の回答が得られた。

1 Yes(はい)、2 No(いいえ)、3 Calls names from list book(名簿から名前を呼ぶ)、4 They took the piece of the student names(名札を準備する)、5 They told us standup(立つように言う)、6 Their voice was friendly&good(フレンドリーで良い声で)、7 Give nicknames to some students(何人かにはニックネームをつける)、8 They call us just like “You!”(ただ「あなた!」と呼ぶ)、9 Calls wrong(間違った名前を呼ぶ)、10 No answer(答えがない)、11 Didn't call clearly(はっきり

呼ばない)、12 They have confidence(自信を持つ)

<表4：クラス別質問3の答え>

	Class										Total
	T1	T2	T4	T5	G2	G3	G4	G5	G6		
Calling upon Yes	13	11	2	9	15	14	1	7	5	77	
	12	10	8	12	19	0	24	9	3	97	
Students No	1	2	0	3	0	0	1	0	0	7	
Calls name from their list book.	2	1	2	0	0	0	1	0	1	7	
They took the piece of the student name.	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	
They told us to stand up.	1	6	1	1	0	0	0	0	0	9	
Their voice ws friendly & good.	0	1	3	0	0	0	1	0	1	6	
They give nickname to some students.	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
They call us just like "You!".	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
They call our name wrong.	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
No Answer.	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3	
They didn't call our name clearly.	0	5	1	4	0	0	0	0	0	10	
They have confidence.	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
Total	32	38	17	32	34	14	28	16	11	222	

この質問項目でも実習生が最も長く接したクラスに、Yes/Noの回答が多く見られた。興味深いのは、学生F2が担当したG2クラスの生徒は、全員がYes/Noで答えている。学生Mが担当したT1は、Yes/Noが多い以外は、おしなべて特徴のない答えである。それに対し、変化が見られるのは学生F1が担当したT2のクラスである。フレンドリーで良い声で指名したと6名の生徒が答えている。また逆にはっきり呼ばなかったと答えた生徒も5名と最も多い。良い方にも悪い方にも結果が出たユニークな形と言えよう。

質問4

本来なら、順序尺度でアンケートを取るべき設問であるが、ここではあえて質的な分析をしたかったので名目尺度で回答をさせるように設計した。ここで得られたデータは9つに大別された。

1 A lot (たくさん)、2 Norm (全然)、3 Little bit (少し)、4 Didn't care (どうでもいい)、5 Can't understand what they are saying(何を言ってるか分からない)、6 Try to understand(理解するよう努めた)、7 Learned about many Korean words(韓国語をたくさん習った)、8 As much as they taught me(彼らが教えてくれたほどに)、9 etc.(その他)

<表5：クラス別質問4の答え>

	Class									Total
	T1	T2	T4	T5	G2	G3	G4	G5	G6	
Engagement	3	17	9	9	19	7	7	2	1	74
A lot.	6	2	0	1	3	0	3	1	0	16
Norm.	21	8	4	6	6	3	2	0	1	51
Little bit.	1	3	0	0	0	0	0	1	0	5
Didn't care.	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4
Can't understand what they are saying.										
Try to understand.	0	4	0	1	0	0	0	5	0	10
Learned about many korean words.	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
As much as they taught me. etc.	0	0	1	2	5	4	7	6	0	25
Total	0	0	3	12	1	0	9	0	9	35
	32	38	17	32	34	14	28	16	11	222

この設問からは単純なYes/Noの回答がなくなった。生徒が集中できたと思われるクラスは、学生F1とF2が担当したT2とG2クラスであり、よく集中できたと答えた学生が大半を占めている。それに対し、とてもその授業が苦しかったと思えるのが学生Mが担当したT1である。32名中27名の生徒が、全然、もしくはわずかに集中したと答え、よく集中できたと答えたのはわずかに3名に過ぎなかった。実習終了後、直接学生Mよりその様子を伝え聞いていたので、それがここで再確認された。

それとは逆に英語に最も自信があったF2が担当したG2クラスの学生は、大変クラスに集中した様子が見て取れる。As much as they taught meという表現は、英語としては間違った表現であるが、「先生が教えてくれたほどに」集中できたということは、暗に先生が熱心に教えてくれたので、自分たちも熱心に勉強したというメッセージが含まれているように感じる。

英語の力では、3人の中ではちょうど中間に位置するF1のクラスを見ると、「理解するよう努めた」が多くなっている。これは先ほどの人間関係を示す指標とも解釈できよう。

質問5

質問5と6はエピソードを書くため、答えがとて多くなった。5の回答は11に大別された。

1 Tells stories about good examples(良い例を話してくれた時)、2 Songs and Games(歌とゲーム)、3 Not so much(あまりない)、4 When they dance in front of the class(クラスで踊った時)、5 When they brought us outside(外に行った時)、6 Took a picture(写真を撮った時)、7 The last day(最後の日)、8 Quiz time(クイズの時間)、9 When they taught us Origami(折り紙を教えてくれた時)、10 Every time(いつも)、11 Showing pictures(写真を見せてくれた時)

<表6：クラス別質問5の答え>

		Class									Total
		T1	T2	T4	T5	G2	G3	G4	G5	G6	
Best Lesson	Tells stories about good examples.	6	1	1	6	4	0	6	2	3	29
	Songs and Games	16	25	7	3	2	13	6	10	7	89
	Not so much	3	0	2	10	4	0	1	0	0	20
	When they dance in front of the class	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	When they brought us outside	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Took a picture	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	The last day	2	1	0	2	23	0	0	0	0	28
	Quiz time	1	4	0	1	0	0	2	0	0	8
	When they taught us Origami	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	Every time	0	4	7	10	1	1	13	4	0	40
	Showing pictures	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
Total		32	38	17	32	34	14	28	16	11	222

まず、全体を眺めて気がつくのは、韓国人実習生との接触が長かったクラスほど、一番うまく教えてもらった回答に集中している点である。時間が短いと、思い出もばらばらになっている。T1クラスを教えて、生徒が集中できなかったと述べた学生Mのクラスでは、歌とゲームの時間が一番よく教えてもらったと感じている。そしてその傾向は、T2クラス

を教えた学生F1の生徒になるとより顕著となる。学生F2のG2クラスの生徒は、34名中23名が最後の授業と答えている。F2本人に確認してみたところ、別に特別なことはしていないと言う。これまでの復習を通してやり、最後にまとめのテストが最も良い思い出なのか分からない。

質問6

集計してみたところ、回答の種類は全部で12。これまでで、最もバリエーションが豊かである。

1 Music video(音楽のビデオ)、2 Being confused(混乱した時)、3 Can't understand questions(質問が理解できなかった時)、4 Talking in Korean(韓国語で話した時)、5 Singing a song(歌を歌った時)、6 Teacher says "Ahhhh"(先生が「あー」と言った時)、7 Being sick(気分が悪かった時)

8 Teacher's nose gets black by the marker pen(先生の鼻がマーカーで黒くなった時)、9 Nothing(なし)、10 Sometimes(ときどき)、11 When used blackboard(黒板を使った時)、12 Learning Hiragana&Katakana(ひらがなとカタカナを習った時)

<表7：クラス別質問6の答え>

		Class									Total
		T1	T2	T4	T5	G2	G3	G4	G5	G6	
Worst	Music video	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9
Lesson	being confused	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
	Can't understand questions	4	3	1	1	0	0	0	0	0	9
	Talking in Korean	3	0	0	0	0	0	2	2	0	7
	Singing a song	1	0	0	0	0	0	11	0	0	12
	Teacher says "Ahhhh"	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Being sick	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	Teacher's nose gets black by the marker pen	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	Nothing	4	31	12	21	23	0	8	3	8	110
	Sometimes	3	0	2	10	10	14	7	11	3	60
	When used blackboard	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	Learning Hiragana&Katakana	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
Total		32	38	17	32	34	14	28	16	11	222

この設問においても、授業がうまくできた実習生と、苦しんだ学生とがはっきりと分かる。一番悪かった授業がないと答えた生徒が、T2クラスの場合38名中31名、G2クラスは34名中23名だった。それに対し、英語が苦手な学生Mが担当したT1クラスは32名中わずかに4名であった。

では、それ以外の生徒が何と答えているかを見ると、音楽のビデオが9名。これは自分の語学力を補うために、補助教材を準備したのであるが、生徒には評判が悪かったようである。

質問の意味が分からなかった時と答えた生徒も、英語の得意な学生F2のG2クラスが0だったのに対し、T2クラスが3名、T1クラスは4名になっている。それ以外にも、学生MのT1クラスは、一番悪かったクラスの内容が散らばっている。

興味深いのは、3名の生徒が、「韓国語で話した時」と答えている点だ。英語が苦手なのは分かる。しかし、マレーシアの中学1年生に向かって、韓国語で話すのは問題である。

最後に学生MのT1クラスに見られるもう一つの特徴として、黒板を使った時と答えた生徒が3名いる。英語を話すのは苦手。書いても駄目。ビデオを見せても人気がなく、八方ふさがりで手詰まり感がよくあらわれている結果である。

5.2 韓国人実習生へのアンケート

三人に共通する部分として、マレーシア人教員のクラスをほとんど見学することなく実習に入っていたことである。これは韓国や日本とは大きな差である。学生F2は、その事実に対しても、システムの面への批判を加えている。

また驚いたこととして、動物が教室に入ってくる、トイレに立ち歩く、カンニングをするなど、韓国との相対的比較が出てくる。また、学んだこととして、自然に恵まれ羨ましく思ったり、自分のカリスマ不足を感じている。

マレーシアへのイメージとしては、貧しいと思っていたのがそれが勘違いだったこと、東南アジアにある国からマレーシア人が好きになる変化を答えた。学生F2が、マレーシア人の気質を「和合」と表現しているあたりも興味深い。多民族国家が平和を保っている事実を正確に言い表している。

韓国人にマレーシア文化を説明するキーワードとしては、東西マレーシアの経済格差の実態、チキン好き、みんな笑顔で純粹、ゆったり、謙遜が美德、開放的などが並ぶ。筆者の経験と照らし合わせてみても、どれものを射た表現であると言える。

最後に実習で成長した自分については、アドリブのきく授業、コミュニケーションを取

りながらの授業、韓国で実習したのではできなかった授業など、それぞれが自らを実習によって成長させることができた」と述べた。

6. 結論

問題点として、記述式のアンケートにも関わらず、Yes/Noの答えが多かった点が最も大きな反省点である。アンケートの形式を改良することと、アンケートを依頼する現地教員に対し、念を押して記述を強調する必要がある。

実習生が挙げた問題点に、現地校の生徒とのコミュニケーションの障害がある。マレーシアは英語が第二公用語で、筆者の経験では、英語のみによるクラスに全く問題がないと感じているが、実習生の中には英語が通じないと考えている者がいる。これに関しては、さらなる追加研究が必要となる。それに対し生徒のアンケートの結果からは、実習生と生徒間のコミュニケーションに問題があったように解釈されるデータは見られなかった。マレーシアにおける実習は英語によるため、学生F2は日本語のハンディキャップをうまく補い、英語の実力でクラスをうまくまとめた。それに対し、ある程度日本語に自信があった学生M1は、英語が通じないことでフラストレーションのたまる実習となってしまった。韓国の大学内では日本語の実力のみが試されるわけであるが、海外教育実習では日本語以上に英語の実力が生徒の評価につながるということが分かった。

最後に、本稿はある一つの海外教育実習というケースに対しての検証と評価であって、何かをモデル化したり一般化しようという試みではない。次年度に向けて、より効果的な実習とするために、更なる追加研究が必要なことは言うまでもないが、韓国内では極めてユニークな実践のため、これから海外で実習を検討される教員養成機関にとって、ケース・スタディとして参考にしていただければ幸いである。

【参考文献】

- 福本徹・伊藤久里子(1998)「教育実習生の授業における評価に関する試験調査：生徒による評価について」『日本教育工学会誌』22号
真嶋潤子(2000)「日本語教員養成課程における教育実習の現状と課題--過去5年間の報告--」『大阪外国語大

学論集』23号 大阪外国語大学学術出版委員会

山下大輔(2010)「韓国大学教育における、「国際サービス・ラーニング」導入への一試み」『日本文化研究』33号 東アジア日本学会

山下大輔(2011)「韓国人日本語教師派遣事業の評価プログラムによるマレーシアのエスノグラフィー：2010年3月30日現地到着より6月12日まで」『韓日軍事文化研究』12輯 韓日軍事文化学会

Hofstede, G.(1986) Cultural differences in teaching and learning. *International Journal of Intercultural Relations*, 10, pp.301-320

Sallee, W.M.&Harris, C.S.,(2007)An Eastern Perspective on Western Education :The experiences of International Students Engaged in Service-Learning. in *From Passion to Objectivity: International and Cross-Disciplinary Perspectives on Service Learning Research*, pp41-62. Information Age Publishing.

教育科学部(2011)『2011年度教員資格検定実務便覧』教育科学部(韓国)

【付録1】マレーシア人生徒への事後アンケート

This is NOT for a personal evaluation for each Korean Student. This is entirely for programme evaluation. Please answer all the questions below IN COMPARISON TO YOUR MALAYSIAN TEACHERS.

Before starting this questioner write your class and sex on the top.

1. Describe the way your Korean teacher used the blackboard. How did she/he use it in comparison to Malaysian teachers? Any difference?
2. Describe how your Korean teacher talked in the classroom. Any difference from Malaysians?
3. Describe how your Korean teacher called upon students during the lessons. Any difference from Malaysian teachers?
4. How much did you engage in the lessons taught by your Korean teacher?
5. When do you think your Korean teacher taught the best during her/his lessons?
6. When do you think your Korean teacher did the worst teaching during her/his lessons?

【付録2】実習生の事後アンケートとその答え

1. あなたはマレーシアでの実習中、マレーシア人の先生のクラスを見学しましたか？マレーシア人の先生のクラスをどう思いましたか？

M：見学をしたわけじゃないんですけど、ろうかとかでこっそのぞいたことがありました。自分が授業した時にはみんなおしゃべりで元気だった学生達がマレーシアの先生の授業の時にはものすごく静かで集中したのをみてびっくりしました。

F1：10分程度だけ見学(?)しました！黒板の字がとても小さかったのを覚えています。

F2：한국에서 실습을 나가게 되면 보통 담당반이 있고, 그 반 담임선생님이나 같은 교과목 선생님의 수업을 반 뒤에서 견학합니다. 하지만 말레이시아에서는 교육실습이라는 체계가 갖춰져 있지 않기 때문인지, 한국의 교생이 가서 교육실습을 처음 하기 때문인지 말레이시아인 선생님의 반을 한국에서처럼 견학하지는 못했습니다.(저희가 본다고 하면 볼 수 있게 해 주셨겠지만)또, 한국에서는 다른 선생님들의 수업을 견학함과 동시에 수업을 진행하는데 저희는 처음부터 여러개의 반을 맡아서 수업진도를 나가는 실습형식이었기 때문에 견학할 기회가 적었던 것 같습니다.

견학이라고까지 이야기 할 수 없고 복도창문 너머로 선생님들이 수업하는 모습을 '관찰했던 것을 이야기 해드리면, 말레이시아 선생님들의 수업을 볼 때마다 선생님들이 '프로라는 것을 느꼈습니다. 선생님들은 수업시간에 아이들의 반짝이는 눈망울을 자신을 향해 모두 쏟아게 만들었습니다. 특히 인기있는 선생님의 수업에서 아이들은 대답하기 바빴던 것 같습니다. 친구같은 분위기에서 이야기를 하는 형식으로

말입니다.

한국에서는 전반적인 수업 분위기가 아무래도 조금 엄숙?!하다면 말리아시아 선생님의 반의 분위기는 활발하고 가벼워서 좋았던 것 같습니다.

2. 授業中、一番驚いたことは何ですか? どんな予想しないことがありましたか?

M: 教室に犬や猫や鳥が普通に入って来るのが一番おどろいたことでした。あまりにも予想以外でしたけど、学生達はみんないつものことのように反応したのがまたおどろきでした。

F1: 実習のため、指導案を作って行きましたが、その指導案通りだと、生徒が全然ついていけそうになかったこと。&授業中、生徒がしょっちゅうトイレに行っていたこと。(休み時間がないのでしょうかと思います。)

F2: 제일 놀랐던 것은 아이들이 외국인 선생님이 가르치는 일본어를 너무너무 잘 알아들었다는 것입니다. 수업시간에 손들고 발표도 대답도 너무너무 잘하더라고요. 하지만 일본어 시험을 볼 때 저에게 실망을 시키기 싫었는지 컨닝, 즉 cheating을 하는 아이들이 있어서 그게 제 예상밖의 일이었지요. 너무 슬펐던 일이에요.

3. その経験から、どんなことを学びましたか?

M: 自然と一緒に勉強してる学生達をみて羨ましい感じもありましたし、自然界にめぐまれているかたちであることが祝福されているなどおもいました。

F1: 教える量を4分の1ぐらいに減らしました。

F2: '나는 아직 카리스마가 부족한 걸까? 뭐 이런생각 저런생각을 했습니다. 아직 제가 선생님이 되기 위해 준비를 하는 과정이라 그런 것들을 그나마 가볍게 넘길 수 있었습니다. 하지만 만약에 제가 진짜 시험을 준비해서 진짜 성적에 들어가는 문제를 아이들이 컨닝했다면 정말 어떻게 해야할까 미리부터 겁이 납니다. 무조건적으로 아이들에게 잘해주는 선생님이 되어서는 안되겠다는 생각을 했습니다. 그냥 잘해주는 것은 아이들을 오히려 망친다는 것을 알았지요. 한국에 '매를 아끼면 아이를 망친다는 말이 있습니다. 부모로서 마음이 아프지만 아이를 올바른 길로 인도하기 위해서 매를 들어야한다는 뜻인데요 저도 그 말에 동의하게 되었습니다. 물리적으로 힘을 가하는 것은 당연히 안되겠지만 아이들을 위한 쓴소리를 해야만 하는 거구나라고 생각했습니다.

4. 実習前、マレーシアについて、どんなイメージを持っていましたか?

M: 正直にいろいろ施設がよくないってことを聞いて学生用のつくえもないとおもいました。貧しい国っていう感じでした。

F1: 私はすでにボランティアでマレーシアに行った事があるので、まだマレーシアに行く前ときだと、「東南アジアにある国」

F2: 실습을 가기 전에 말레이시아라는 나라에 대해서 그냥 '동남아시아국가, '우리나라보다 못사는 나라라고 생각했었습니다.

5. 実習をすることで、それがどう変化しましたか?

M:それほど貧しい国ではないことをわかりました。韓国人のようにiPhoneもあるし、パソコンもあるしデジカメも普通だったことをみてすごく勘違いしたなどおもいました。

F1: マレーシア人が好きになりました。

F2: 하지만 실습을 하고 나서 우리나라가 영어연수로 많이 가는 필리핀보다도 훨씬 잘 사는 국가라는 것을 알게 되었습니다. 또 '여러민족들이 어루러져 살면서 화합하는 나라구나라고 생각했습니다. 각 민족마다 특색있는 축제를 열고 그러면서 민족들끼리 자부심도 느끼는 모습을 보면서 '경제적으로는 풍요롭지

못하더라도 즐겁게 사는 구나도 느꼈습니다. 말레이시아 사람들이 타국에서 온 이방인들이라 잘해주셨는지 잘 모르겠지만 선생님들은 정말 너무 잘 챙겨주셨고, 말도 많이 걸어주셔서 우리나라만큼 정이 있는 나라라고도 느끼게 되었습니다.

6. 實習後、韓国人に、マレーシアの文化をどう説明しますか?

M: マレーシアは二つの島でわけられている。一つの島はまるでソウルのように発展されているが、もう一つの島は休養地とされてわざと発展されてないが、韓国で使ってるものをみんな普通に使う。だから勘違いしないで。と話したい。

F1: 文化というか…チキンが大好きな国で、マレーシアは韓国と違って、いつもみんな笑顔だし、生徒も純粋だし、心配ごとなんてなさそうな、ゆったりとした国

F2: 저는 아직도 말레이시아의 정신문화에 대해서는 잘 모르겠습니다. 우리나라나 일본과 같은 경우에는 '겸손이 미덕이라고 알고 있어서 특히 어른들 앞에서는 자신의 주장을 내세우지 않고 어른들의 말씀을 잘 따르는 것이 예의바른 모습이라고 커왔습니다. 하지만 말레이시아가 영어를 공용어로 채택한 나라여서인지 솔직하고 직설적으로 말해야 할 때가 있었습니다. 그래서 같은 아시아국가임에도 문화적으로 차이가 있구나를 느꼈습니다.

다른 한국인에게 설명을 한다면 '생각보다 너무 좋은 나라이다. 사람들도 모두 착하고, 우리나라 시골처럼 인심이 좋다, '우리가 알고 있던 것 보다 훨씬 솔직하고 개방적인 나라라고 생각한다' 고 하였습니다. 외국인이니까 그랬겠지만 조금 먼 곳에 가려고 하면 차로 기꺼이 데려다 주시고, 뭐라도 만들어주시려고 했습니다. 그리고 자신의 생각을 정확하게 표현하는 것이 좋은 것 같다고 이야기하였습니다. 이에 더해 아이들의 이성교제 부분에 있어서 우리나라 아이들만큼의 관심을 가지고 있다고 말할 것입니다.

1. 實習をすることで、教える技術がどのように変化しましたか?

M: 以前は台本を作ってそれを全部暗記してからマニュアルとおりに教えましたけど、實習の時その方法では限界がありましたので、アドリブを少しずつ使ってみることで、教えることに台本とおりの授業じゃなくもうすこしゆとりあるように対応することができました。

F1: 指導案ばかりでなく、生徒とコミュニケーションをとりながらの授業ができるようになりました(多分)

F2: 가르치는 기술이 변했다는 것은 가기 전에 가르쳤던 것과 비교해서 무엇이 어떻게 변했는지를 알 수 있어야 합니다. 하지만 저는 교육실습 전에 누구를 가르쳐 본 경험이 없습니다.

따라서 제가 집중하게 된 기술에 대해서 설명하겠습니다. 외국인이 외국인의 공용어로 다른 나라말을 가르쳐야 하는 까닭에 흥미위주의 교육을 이끌기 위해 말하기에 집중했습니다. 원래 한국학생들을 대상으로 가르쳤다면 문법위주의 수업이었겠지요. 학생들과 재미있게 수업하려고 퀴즈를 내고 맞추면 칭찬은 기본이고, 작은 부상으로 한국과자선물로 아이들에게 동기부여하는 형식으로 수업은 이루어졌습니다.

논문투고일 : 2011년 12월 10일
 심사개시일 : 2011년 12월 20일
 1차 수정일 : 2012년 01월 10일
 2차 수정일 : 2012년 01월 16일
 게재확정일 : 2012년 01월 20일

<要旨>

日本語教員養成課程における海外教育実習の評価と課題

筆者の勤務先では2010年度より教職免許取得要件としての教育実習を海外(マレーシア)で実施している。本稿は、このユニークな試みに対して、初めて実質的な評価と検証を加えることを目的とする。その方法とは、基本的に韓国人が引率を行わないため、マレーシアで実習生のクラスを受けた生徒と、韓国人実習生の双方に対し、質的なアンケート調査を事後に実施する。そこで得られたデータを比較分析をすることで、このプログラムが持つ潜在的な問題点を明らかにし、次年度へのよりよいプログラム化へ活用する。

それによって、事前の授業の見学がプログラム化していないことを発見した。これは、文化の違いがその原因にあると思われるが、勤務先が現地校へ積極的に働きかけることで、来年度以降は、しっかりとマレーシア人教員のクラスを見学した上で、実施させることが必要となる。

さらに、韓国から実習に派遣する時期が、マレーシアでの全国統一試験の時期と重なることも明らかになった。そのため、4週間の実習期間中、実習生が授業をできたのはわずか2週間に留まった。そのため、今後は時期をずらすなどして、実習期間が無駄にならないようなスケジュールを組む必要がある。

実習生個人に対しては、マレーシア人生徒からの生の声を届けることができた。媒介言語が英語であるため、日本語のクラスを行っても、実習生の日本語よりも英語の実力が優先的に評価の対象となることも判明した。

実習生らが、実習前と実習後で、異なるマレーシアのイメージを抱いている点も、海外で教育実習をする価値を高めている。

An Malaysian perspective on Korean Pre-Teachers and Korean Perspective on Malaysian Education.

A practicum for pre-teachers has been placed in Malaysia since 2010. This research substantially examines and evaluates this program for the first time. As a methodology, two different qualitative surveys took place after the practicum onto both pre-teachers and students who were taught by the Korean student teachers. The data collected were analyzed in order to illuminate the potential problems of this program and utilized to make it better for the next year.

It discovered that the local school did not let the pre-teachers to look at the lessons held by Malaysian teachers before the practicum. Probably, it was caused by the cultural difference between the two countries. Moreover, the time the practicum was held was the time for the national exam in Malaysia thus Korean students only gave lessons for 2 weeks even though they stayed there for 4 weeks. It should be rescheduled for the future program.

Other data became raw feedback from the students they taught. Through this program the pre-teachers deepens their understanding on the Malaysian culture.